



Japan Foundation for
Regional Art-Activities

地域創造レター

1月号—No.344
2024.1.1
(毎月1回25日発行)

News Letter to Arts Crew

【紅鳶(べにとび)】紅色がかった赤褐色。

茶色が流行した江戸時代に生まれた色名。庶民に馴染みの鳥だった鳶の茶色(鳶色)から派生した変相色で、紫っぽくした紫鳶、ほぼ紺色の紺鳶などがある。ちなみに江戸時代の火消し(鳶)が着用した半纏がこの紺鳶色で、言葉の連想としか思えない色になっている。

●目次 / contents

地域創造理事長 新年のご挨拶.....2

今月のニュース.....4

第24回「地域伝統芸能まつり」

令和5年度「地域創造大賞(総務大臣賞)」受賞施設決定

財団からのお知らせ.....8

令和6年度「公共ホール音楽活性化事業(おんかつ)」「公共ホール邦楽活性化事業」スタッフ募集/WEBでの情報発信のお知らせ/「特別寄稿 ビューポイント view point」No.14掲載について/令和6年度「リージョナルシアター事業」全体研修会報告/雑誌『地域創造』第49号発行/地域創造発行物のご案内

今月の情報.....11

地域通信/アーツセンター情報

今月のレポート.....16

仙台市 せんだいメディアテーク

「自治とバケツと、さいかちの実—エピソードでたぐる追廻住宅—」

～新年のご挨拶～

一般財団法人地域創造理事長 河内 隆

謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

知事、市区町村長の皆様、ホール・劇場・美術館等の皆様、アーティストの皆様をはじめ当財団の事業にご理解・ご協力をいただいている関係者の皆様には心から御礼申し上げます。

地域創造は、本年9月に設立30周年を迎えます。「十年一昔」とも言われますが、30年とは、一世代、親と子の間隔に相当する長さです。この間、当財団は、「地域住民が良質な文化・芸術を創造し、享受することができるようなゆとりと潤いに満ちた地域社会の実現」に資するため、地方公共団体の方々、公立文化施設の方々、地域の文化・芸術の担い手の方々と手を携えて活動して参りました。長年にわたり皆様にご理解・ご協力をいただいたことに対しまして、改めて心から感謝申し上げます。

これまで当財団は、地域における文化・芸術活動を担う人材の育成、公立文化施設の活性化の支援、地域伝統芸能の保存・継承の支援、地域の文化・芸術環境づくりに関する情報発信・調査研究という4つの柱で事業を実施して参りました。その成果を顧みますと、人材の育成では、ステージラボなどの実践的な体験型研修を実施し、累計で約5,400人を超える方々に参加いただくとともに、その経験者の多くが最前線で中核となって活躍されています。公立文化施設の活性化支援策として当初は斬新な取り組みとしてスタートしたアウトリーチ事業は、延べ1,513団体で約5,800回実施されるなど、今や全国的に広く定着しているところです。地方公共団体等が主体的に取り組む地域の文化芸術活動に対する助成も、195億円に達しました。

人々に行動変容を迫った新型コロナウイルスの猛威は、誰にとっても、とりわけアーティストの方々にとって耐えがたい受難の日々でしたが、人と人とのつながりの大切さ、文化・芸術が日常生活にとってなくてはならないものであることへの気づきを得られる貴重な契機ともなりました。

このように、文化・芸術は、人々に安らぎ、勇気、希望を与えるという本質的価値が深く認識された今こそ、その灯を消さぬように次世代への継承の努力を継続していかなければならないと考えます。“With コロナ時代”に、国・地方公共団体が一体となって文化・芸術の振興を進めていくにあたり、様々な主体と協調していく重要性については、「文化芸術推進基本計画(第2期)」(令和5年3月24日閣議決定)でも触れられており、その中で「一般財団法人地域創造等の民間団体との連携を強化する」と当財団が明記されたことも踏まえ、積極的に取り組んでまいります。

人口減少・超高齢化の中で日本の地域社会は幾多の課題に直面しておりますし、また地域の文化・芸術を巡る環境も大きく変化していきますが、到来した成熟社会の中で文化・芸術の力が地域を豊かにする鍵となると確信しております。当財団としては、これまで皆様とともに築き上げてきたネットワークを活かしながら、皆様方のニーズを丁寧に汲み取り、地方が自ら考えていく元気で創造性豊かな地域づくりを、引き続き支援していく覚悟です。

皆様方のご支援、ご協力の程を、引き続き宜しくお願い申し上げます。

2024年1月

2024年1月～3月 地域創造事業スケジュール

当財団では年度末にかけて、全国各地でさまざまな事業を展開しております。

1月

- 市町村立美術館活性化事業
第23回共同巡回展 福岡アジア美術館蔵
「うるおうアジア ―近代アジアの芸術、その多様性―」/～1月28日
- 令和5年度地域創造大賞(総務大臣賞)表彰式(東京都・グラウンドアーク半蔵門)/1月19日
- 公共ホール音楽活性化事業
秋田県能代市(能代市文化会館)/1月18日～20日
岡山県久米南町(久米南町文化センター)/1月25日～27日
- 公共ホール邦楽活性化事業
東京都調布市(調布市文化会館たづくり)/1月11日～13日
埼玉県三郷市(三郷市文化会館)/1月25日～27日
- リージョナルシアター事業
京都府京都市2回目派遣(ロームシアター京都)/1月7日～10日
茨城県茨城町2回目派遣(町内各施設)/1月15日～18日
- 公共ホール現代ダンス活性化事業
広島県東広島市Cプログラム(東広島芸術文化ホールくらら)/1月18日～21日
- 地域創造セミナー
千葉県/1月23日

2月

- 公立美術館地域展開型研修事業(美術館出前(オーダーメイド)型ゼミ)
千葉県立美術館/未定
長崎県美術館/2月14日
- 公共美術館共同巡回展開催助成事業(2カ年プログラム)
「顕神の夢 ―幻視の表現者―村山槐多、関根正二から現代まで」/～2月25日
- 公共ホール音楽活性化事業
岐阜県大野町(大野町総合町民センター)/2月2日～4日
兵庫県市川町(市川町文化センター)/2月8日～10日
山形県鶴岡市(荘銀タクト鶴岡(鶴岡文化会館))/2月21日～23日
新潟県魚沼市(魚沼市小出郷文化会館)/2月21日～23日
大阪府茨木市(茨木市市民総合センター)/2月21日～23日
- 公共ホール邦楽活性化事業
大阪府河内長野市(河内長野市立文化会館(ラプリーホール))/2月8日～10日
- リージョナルシアター事業
茨城県日立市2回目派遣(日立市多賀市民会館)/2月9日～12日
- 公共ホール現代ダンス活性化事業
高知県四万十市Bプログラム2回目派遣(四万十市総合文化センター)/2月6日～11日
愛知県知多市Aプログラム(知多市勤労文化会館)/2月20日～23日
- ステージラボ岡山セッション(岡山芸術創造劇場ハレノワ)/2月6日～9日
- 公共ホール創造ネットワークモデル事業
神奈川県(KAAT神奈川芸術劇場)/2月3日～12日
神奈川県座間市(ハーモニーホール座間)/2月17日、18日
// 川崎市(川崎アートセンター)/2月21日
// 小田原市(小田原三の丸ホール)/2月24日、25日
// 逗子市(逗子文化プラザ)/2月28日

3月

- 第24回地域伝統芸能まつり(東京都・NHKホール)/3月3日
- 公共ホール音楽活性化事業
福岡県那珂川市(ミリカローデン那珂川)/3月21日～24日
- 公共ホール邦楽活性化事業
滋賀県長浜市(木之本スティックホール)/3月7日～9日
- 公共ホール創造ネットワークモデル事業
神奈川県茅ヶ崎市(茅ヶ崎市民文化会館)/3月2、3日

●「地域伝統芸能まつり」

24回目のテーマは「翔～時を超えて、はばたく生命。～」^{いのち}

第24回 地域伝統芸能まつり



令和4年度 第23回地域伝統芸能まつり オープニングの様子

地域創造では、地域の重要な資源である地域伝統芸能の保存・継承・活用を支援しています。なかでも、日本各地域の伝統芸能と古典芸能が一堂に会し、個性豊かなさまざまな芸能が歴史的、地域的な解説とともに披露される「地域伝統芸能まつり」は、日本の芸能のすばらしさや地域の伝統の重みを再認識する機会として高く評価されています。

平成12年度から開催されてきたこのまつりでは、これまで、全国47都道府県から199演目が披露されました。第24回目となる今年のテーマは、「翔～時を超えて、はばたく生命(いのち)。～」。テーマに沿った、日本各地域の伝統芸能7演目と古典芸能1演目をご紹介します。

●「地域伝統芸能まつり」に関する問い合わせ
総務部 高野
Tel. 03-5573-4056

◎出演予定の地域伝統芸能・古典芸能(出演順)

行祭事名または演目	地域または出演者	都道府県単位でみた場合の出演回数
●行山流舞川鹿子躍	一関市(岩手県)	12回目(5年ぶり)
●重松流祭ばやし	所沢市(埼玉県)	4回目(8年ぶり)
●下平井の鳳凰の舞	日の出町(東京都)	6回目(7年ぶり)
●大治太鼓	大治町(愛知県)	6回目(9年ぶり)
●狂言『神鳴』(大蔵流)	茂山七五三、茂山逸平 ほか	—
●新城の囃子曲持	川崎市(神奈川県)	3回目(13年ぶり)
●大元神楽	江津市(島根県)	7回目(6年ぶり)
●江戸火消しの梯子乗り	東京都	6回目(7年ぶり)

[日時] 2024年3月3日(日) 午後2時30分開演
[会場] NHKホール(東京都渋谷区神南2-2-1)
[入場] 無料(事前申込制)
[主催] 地域伝統芸能まつり実行委員会、(一財)地域創造
[後援] 総務省、文化庁、観光庁、NHK
[協力] 名鉄観光サービス(株)

◎応募方法 インターネットのみ(パソコン、携帯電話等)
下記募集サイトからご応募ください。
<https://www.nhk-p.co.jp/chigeisai2024>
応募締切: 2023年1月28日(日) 午後11時59分

- ◎お問い合わせ ハローダイヤル
Tel. 050-5541-8600(全日9:00~20:00)
- *同一メールアドレスでの重複申し込みはできません。また、同一電話番号で複数お申込みいただいた場合、1件として取り扱います。
 - *ご応募いただいた方には、受付確認メールをお送りいたします。
 - *入力内容に不備があった場合は、無効となりますのでご注意ください。
 - *応募多数の場合は抽選となります。当落結果は、2月上旬頃に申込者全員にメールにて通知いたします。
 - *当選者には、座席指定券を公演日の約1週間前を目途に発送いたします。
 - *ご来場は申込時に登録された方に限らせていただきます。それ以外の方へのチケットの譲渡はお断りいたします。
 - *ご応募いただいたお客様の個人情報は、本フェスティバルの抽選、当落告知および個人を特定しない統計資料の作成の目的で使用させていただきます。お客様の事前の承諾なく個人情報を業務委託先以外の第三者に開示、漏洩いたしません。
 - *荒天などの影響により公演を中止する場合があります。あらかじめご了承ください。最新の開催情報は、地域伝統芸能まつりのホームページなどお知らせいたします。
 - *発熱などの体調に不安がある方は、ご来場をお控えいただくようお願いいたします。
 - *ご来場時は手洗いや咳エチケットにご協力ください。

▼— 今月のニュース

地域創造からのニュースを毎月掲載します

●第24回地域伝統芸能まつり プログラム紹介 *演目は変更される場合もありますのでご了承ください。

ぎょうざんりゅうまいかわし しおどり 行山流舞川鹿子躍(岩手県一関市)



©石井陽子

1700年代初頭に宮城県南三陸町から一関市舞川に伝わりました。鹿角がついた頭をかぶり、自ら唄い、太鼓を打ち鳴らし、背負った「ササラ」を揺らしながら勇壮に踊られるもので、五穀豊穡、祖霊供養といった祈りが込められています。40年ほど続く地元小、中学校への育成活動と共に、

女性や地域外からの参加にも早くから門戸を開いたことで、若い継承者も育っています。出身者を中心に立ち上げられた「東京鹿踊」との連携や海外公演、体験受け入れなど様々な取組みを行っています。岩手県指定無形民俗文化財。

じゅうまりゅうまつり 重松流 祭ばやし(埼玉県所沢市)



重松流祭ばやしは、天保元(1830)年、所沢生まれの古谷重松(ふるや・じゅうまつ)が編み出した囃子の流派です。重松は行商のために近郷近在を歩き、その先々に囃子を伝授したと伝わり、幕末から明治期以降、所沢を中心として多摩地域にかけて広まりました。重松流の特徴は、テンポの良さと屋台囃子の小太鼓二つ(地と絡み)の掛け合いにあるといわれ、囃子に合わせて、三番叟・天狐(てんこ)・獅子・おかめ・ひょっとこ・藤助(とうすけ)・外道など、様々な踊りが繰り出されます。現在は、所沢市重松流祭囃子保存会の皆さんなどによって保存伝承されています。

しもひらい ほうおう まい 下平井の鳳凰の舞(東京都日の出町)



下平井の鳳凰の舞は、奴(やっこ)の舞と、鳳凰の舞の二庭(ふたにわ)で構成される、全国的にもあまり類例のない貴重な民俗芸能です。残念ながらはっきりとした伝承由来の文献は残っていませんが、雨乞いや悪疫退散の舞として奉納されたそうです。かつては春日神社の祭礼に限らず、度々行われていましたが、明治頃に途絶えてしまいました。昭和初期に復活し、現在では地域住民による保存会の手によって大切に伝承されています。平成18(2006)年に国の重要無形民俗文化財に指定され、令和4(2022)年に「風流踊」としてユネスコ無形文化遺産に登録されました。

おおほらだいこ 大治太鼓(愛知県大治町)



大治太鼓は江戸時代より尾張南部に伝わる神楽太鼓を基としています。昭和時代には、各字の社務所で練習し秋祭りなどで披露していたようです。徐々に後継者不足となる中、末永く伝えていこうという住民の熱意と大治町の意向が重なり、平成4(1992)年に大治太鼓保存会が創られ、後継者の育成に努めています。太鼓の特徴としては、非常に甲高い音色で細かなリズムを高速で打ち鳴らします。また座って打つ打法はバチを回転させたり飛ばしたりと曲芸性の高い奏法となっています。近年では、様々な種類の太鼓を使用し組み太鼓も取り入れ、さらに演奏を進化させています。

かみなり 狂言『神鳴』(大蔵流) [出演]茂山七五三、茂山逸平 ほか



一天にわかにかき曇り、都から東へと下るヤブ医者(やくし)の目の前に、轟音とともに空から落ちてきたのはナント!あの神鳴様ではありませんか。腰を打って痛がる神鳴に、手当をするヤブ医者(やくし)の手には大きな針が握られています。さて、どうなりますか。

しんじょう ばやしきょくもち 新城の囃子曲持(神奈川県川崎市)



囃子曲持はお囃子の調べとともに、米俵や脚立、桶などを使って曲芸を行う民俗芸能です。新城の囃子と曲持は共に明治の初め頃に伝わったとされ、個々に伝承してきた囃子連中と曲持連中が昭和48(1973)年に一体となり、保存会が結成されました。鎌倉囃子の系統を引く軽快なお囃子に乗せて行われる曲持は、約55kgの俵を持ち上げる基本形から、約25kgの俵を脚立や桶などの道具で受け取るなど、他に類を見ない力強い芸が特徴です。昭和52(1977)年に神奈川県民俗芸能50選に選ばれ、昭和53(1978)年に川崎市重要習俗芸芸(川崎市指定文化財)に指定されています。

おもととかぐら 大元神楽(島根県江津市)



大元神楽は古くから島根県の西部に広くあった大元信仰(おもと)に由来し石見神楽の原型とされています。一種の農耕神楽(いんこう)として村々に祀られる集落の神「大元神」を祀って、6年に一度夜を徹して行う式年神楽です。大元神楽特有の演目や石見神楽と同様な演目があり、ゆつたりとした六調子で舞います。氏子の舞だけでなく、神社の神職によって舞われる神事舞(かみなり)が受け継がれており、この中でも「託舞」と呼ばれる神がかり託宣(たくせん)の古儀を伝承されている事が一般の神楽に見られない大きな特徴です。昭和54(1979)年に国の重要無形民俗文化財、令和元(2019)年に日本遺産へそれぞれ指定・認定されました。

えどひびきの はしごのり 江戸火消しの梯子乗り(東京都)



消防出初式は、年明けの恒例行事として各地で行われています。今日では様々な消防演技が披露される中であって、「纏(まと)振り」や「梯子乗り」(はしごのり)、「木遣(きやり)歌」は、江戸時代の町火消の心意気を今に伝えています。梯子乗りの起源は定かではありませんが、万治2(1659)年1月4日に、時の老中稲葉伊予守正則が、定火消総勢四隊を率いて上野東照宮前で顔見世の儀式「出初」を行い、氣勢を上げたことに由来すると伝えられています。現在、各自治体の消防出初式において演じられる梯子乗りは、消防職員や消防団員が行っていますが、東京消防出初式では、「江戸消防記念会」がその技を保存、伝承しています。

●令和5年度「地域創造大賞(総務大臣賞)」受賞施設決定

令和5年12月、地域創造大賞(総務大臣賞)の受賞施設に、以下の5施設を決定しました。

受賞施設の設置主体である地方公共団体、地域における創造的で文化的な環境づくりを目指し施設の運営に尽力されたスタッフの方々、施設を拠点に文化活動等を行う地域住民の皆様、誠におめでとうございます。地域創造では、受賞施設の活動を紹介させていただくことを通じて、全国の公立文化施設のさらなる活性化が図られることを期待しています。

◎令和5年度地域創造大賞(総務大臣賞)表彰式

[日時] 2024年1月19日(金) 14:00～14:50

[会場] グランドアーク半蔵門 華の間

◎令和5年度審査委員会

委員長	田村孝子(文化ジャーナリスト、前 公益社団法人全国公立文化施設協会 副会長)
委員長代理	吉本光宏(合同会社文化commons研究所 代表)
委員	河内隆(一般財団法人地域創造 理事長)
委員	熊倉純子(東京芸術大学大学院 国際芸術創造研究科 長 教授)
委員	小林真理(東京大学大学院人文社会系研究科教授)
委員	坪池栄子(株式会社文化科学研究所 編集プロデューサー)
委員	仲道郁代(ピアニスト)
委員	柳沢秀行(公益財団法人大原美術館 学芸統括)

深川市文化交流ホールみ・らい | 北海道深川市

“アーティストとの交流”により市民に活力

施設計画に携わった市民文化団体有志の設立したNPO法人深川市舞台芸術交流協会が2006年から運営。クラシック音楽のアーティストとの絆を育み、アウトリーチ(2016年度からは市内全小中学校)、エンタランスコンサート、創造的な市民参加事業を意欲的に展開。人口1万9千人のまちの文化広場としてアーティストとの交流による心豊かな暮らしに貢献した。

[運営] NPO法人深川市舞台芸術交流協会 [開館] 2004年

[施設概要] 大ホール(691席)、ワークショップルーム、創作活動室、談話室ほか



深川市文化交流ホールみ・らい外観



創作市民ミュージカル『夢を追いかける瞳2～あれから10年』

神奈川県立県民ホール神奈川芸術劇場(KAAT神奈川芸術劇場) | 神奈川県

“創造発信型劇場”の旗手

芸術監督、技術監督など専門家を配して運営。貸館による首都圏の人気公演と並び、新進アーティストを起用した演劇・ダンスの斬新な新作を数多くプロデュース。ファミリー層に新しい舞台体験を提供するKAATキッズ・プログラム、オリジナル・プロダクションによる県内ツアーなど高度な舞台芸術の広域拠点施設として尽力した。

[運営] 公益財団法人神奈川芸術文化財団

[開館] 2011年

[施設概要] ホール(最大約1,200席)、大スタジオ(最大約220席)、中スタジオ・小スタジオA、小スタジオBほか



KAAT神奈川芸術劇場外観



KAATカナガワ・ツアー・プロジェクト第一弾『冒険者たち～JOURNEY TO THE WEST～』
撮影:宮川舞子

▼— 今月のニュース

地域創造からのニュースを毎月掲載します

京都会館(ロームシアター京都) | 京都市

文化芸術都市における“劇場文化”を振興

前川國男設計の京都会館を改築し、ロームシアター京都として再出発。「劇場文化をつくる」をミッションに、新作プロデュース、伝統芸能の継承、京都国際舞台芸術祭「KYOTO EXPERIMENT」、京都芸術センターなどとの連携、「劇場の学校」による人材育成、子どものプログラム、ローム・スクエアを活用した販わい創出事業などを展開。国際的な文化芸術都市・京都の振興に貢献した。

[運営] 公益財団法人京都市音楽芸術文化振興財団 [開館] 1960年(2016年改築)

[施設概要] メインホール(2,005席)、サウスホール(716席)、ノースホール、ローム・スクエアほか



ロームシアター京都外観 撮影:小川重雄



プレイ!シアター in Summer 2022 オープンウィーク
「京都市交響楽団0歳からの夏休みコンサート」
撮影:市川靖史

豊中市立文化芸術センター | 大阪府豊中市

“新たなハブ”として地域の魅力を発信

大阪のベッドタウンとして発展した中核都市・豊中の文化芸術拠点。日本センチュリー交響楽団がパートナーオーケストラとして連携。幅広いジャンルの鑑賞事業に加え、地元演奏家と市民コーディネーターを育成する「とよなかARTSワゴン」、大学と連携したプロジェクトなどを展開。文化芸術と市民をつなぐ新たなハブとして地域の魅力を発信した。

[運営] JCD・日本管財・大阪共立グループ [開館] 2017年

[施設概要] 大ホール(1,344席)、小ホール(202席)、中ホール「アクア文化ホール」(441席)、展示室(325㎡)、多目的室ほか



豊中市立文化芸術センター外観



とよなかARTSワゴン「ふれアート」

和歌山県立近代美術館 | 和歌山県

“コレクション活用”による美術館運営の旗手

1963年に開設された和歌山県立美術館が前身。保田龍門、川口軌外、川端龍子ら郷土作家の作品を積極的に収集し、近現代版画を含め約15,000点を所蔵。美術館の基本であるコレクション活用の充実を図り、テーマ別展覧会、教職員と連携した「なつやすみの美術館」、小学生向け隔月鑑賞会などを展開。地域文化の普及と誇りの醸成に貢献した。

[運営] 和歌山県 [開館] 1994年

[施設概要] 展示室A(1,057㎡)、展示室B(486.1㎡)、展示室C(1,038.6㎡)ほか



和歌山県立近代美術館外観



こども美術館部

財団からのお知らせ

●令和6年度「公共ホール音楽活性化事業(おんかつ)」[公共ホール邦楽活性化事業]スタッフ募集

公共ホール音楽活性化事業(おんかつ)は、当事業に登録しているクラシック音楽の演奏家と、クラシック音楽事業の企画制作について経験が豊富な専門家(コーディネーター)を公共ホールへ派遣し、身近で親しみのある「コンサート」と地域住民との交流を図る「アクティビティ」を実施するものです。

また公共ホール邦楽活性化事業は、当事業に登録している邦楽の演奏家と、邦楽事業の企画制作について経験が豊富な専門家(コーディネーター)を公共ホールへ派遣し、身近で親しみのある「ホールプログラム」と地域住民との交流を図る「アクティビティ」を実施するものです。

両事業において、コーディネーターの補助業務を担当していただく、サブコーディネーター・

アシスタント、研修スタッフを募集します(研修スタッフはおんかつのみ募集)。

◎募集概要

サブコーディネーターとアシスタントは、文化・芸術分野の公演、アウトリーチやワークショップなど、地域の文化・芸術活動に関わった経験のある方などを対象とし、地域におけるアウトリーチ活動や当事業の中核となって活躍する人材の育成を目的としています。

研修スタッフは、公共ホールの職員を対象にアウトリーチ事業の企画制作等について実践的な研修を実施し、地域の文化・芸術を担う人材の育成に加え、地域間の相互交流の促進も担っています。

募集要項および応募用紙は当財団ホームページに掲載しています。詳細は担当までお問い合わせください。

募集締切：2024年1月15日(月) 必着

●WEBでの情報発信のお知らせ

地域創造ではWEBでの情報発信にも力を入れています。財団ホームページでは、当財団のこれまでの事業実績や登録アーティスト情報をデータベースとして検索できるほか、地域創造レターのバックナンバーや各種報告書もご覧いただけます。また「おんかつ支援」のページでは、登録アーティストから提供いただいた所属事務所や個人のホームページ、SNS、動画などのURLをまとめたリンク集を掲載するなど、事業の参考となるような情報も随時更新しています。「地域文化資産ポータルサイト」では、全国各地の伝統芸能等の映像を掲載。月

ごとのテーマに合わせた映像の紹介も行っています。そのほか、YouTubeやFacebookでも随時情報発信をしております。地域創造レターと併せて、ぜひご活用ください

- ◎財団ホームページ
<https://www.jafra.or.jp/>
- ◎おんかつ支援登録アーティストリンク集
<https://www.jafra.or.jp/project/music/03.html>
- ◎地域文化資産ポータルサイト
<https://bunkashisan.ne.jp>
- ◎地域創造公式YouTubeチャンネル
https://www.youtube.com/channel/UCQzyG0gkEMVvdjkLVPh4r_A
- ◎地域創造公式Facebook
<https://www.facebook.com/RegionalArtActivities/>

●「公共ホール音楽活性化事業(おんかつ)」サブコーディネーター・アシスタント・研修スタッフの募集要項は下記よりご覧いただけます。

<https://www.jafra.or.jp/project/music/01.html>

●「公共ホール邦楽活性化事業」サブコーディネーター・アシスタントの募集要項は下記よりご覧いただけます。

<https://www.jafra.or.jp/project/music/04.html>

◎問い合わせ

芸術環境部 矢嶋・森永
Tel. 03-5573-4064 (矢嶋)
Tel. 03-5573-4069 (森永)

●「特別寄稿 ビューポイント view point」No.14 掲載について

地域創造ホームページ限定で、有識者やキーパーソンから文化芸術および公立文化施設等におけるチャレンジングな取り組みを寄稿していただくコーナー「特別寄稿 ビューポイント view point」。

14回目となる今回は一般社団法人ステージサポート沖縄代表理事、琉球芸能プロデュ

ーサーの大野順美氏にご寄稿いただきました(12月11日更新)。

<https://www.jafra.or.jp/library/other/column14.html>

◎問い合わせ

芸術環境部 林
Tel. 03-5573-4093



▼財団からのお知らせ

地域創造からのお知らせを毎月掲載します

●令和6年度「リージョナルシアター事業」全体研修会報告

令和6年度リージョナルシアター事業の実施予定団体担当者と派遣アーティストが集まり、事業についてのオリエンテーションやディスカッション、企画打ち合わせを行う全体研修会を2023年11月13日、14日の2日間にわたって開催しました。

地域の課題やホールの展望などを踏まえながら、住民等を対象にしたワークショップや学校へのアウトリーチ等を行う当事業は、派遣アーティストと実施団体が協働しながら企画し、実施していきます。この研修会には、令和6年度に事業実施予定の8団体から12名の事業担当者が参加し、地域のことやホールがやりたいこと、課題、演劇の手法を使ったワークショップの効果や可能性などを事業担当者と派遣アーティストとの対話を通して共有することを目指しました。

研修会の初日は派遣アーティストと担当者の顔合わせを行った後に本事業で行うワークショップについての理解を深めるため、演劇の手法を使ったワークショップを体験しました。冒頭に、アドバイザーである岩崎正裕さんが参加者同士が知り合えるワークを行いながら参加者の緊張をほぐし、令和6年度からの新規派遣アーティストの越智良江さん、志賀亮史さん、樋口ミュさんが各30分ずつそれぞれのワークショッププログラムを行いました。仲間と共にワンシーンをつくり上げる(越智)、「音」をキーワードに、その音をグループで表現する(志賀)、日常にあるモノやその持ち主の状況を想像する(樋口)など、それぞれ異なったアプローチで想像することを楽しむワークショップを展開しました。その後、3人のワークショップの内容も踏まえながら、アドバイザーの内藤裕敬さんから「教えない」「訓練をしない」「達成を目指さない」ことで発想を楽しみ、想像力を豊かにできるワークショップのあり方についてのレクチャーがあり、参加者は熱心に耳を傾けていました。

また、「事例紹介」では、課題からどのようにして企画をつくり上げていくのか、派遣アーティストからこれまでの事例における成果や苦勞、事業担当者の役割や心構えについてお話いただきました。一過性のものとして行うのではなく継続性をもって進めるためにはどうすれば良いか、一緒に地域と向き合い新しいアプローチを提案するためにはどうすれば良いかといったことなどが話され、参加者は自らの地域やホールに照らし合わせながら考えを巡らせました。

2日目は、前日のオリエンテーションを踏まえて、それぞれのホールのミッションや地域課題を

基に、その地域ならではの企画の実現に向けての話し合いがグループごとに行われました。派遣アーティストと個々に各地域の状況や目的を話し合うことで、企画の内容だけでなく、新たな課題や、今後検討していくべきことが徐々に形になっていきました。企画打ち合わせの経過報告では、「実際に派遣アーティストと対話をすることで、考えが変わった」「リージョナルシアター事業をきっかけに新たな繋がりをつくっていききたい」など事業内容の他に、研修会を終えての変化や実施に向けた意気込みも語られました。

今後、実施予定団体は、来年度の企画実施に向けて地域課題や地域資源のリサーチを続けながら、派遣アーティストとの打ち合わせを行います。各地域で行われる来年度の事業にご期待ください。



ワークショップの様子
上:越智良江さん/中:志賀亮史さん/下:樋口ミュさん

●令和6年度「リージョナルシアター事業」

○派遣アーティスト

- 多田淳之介(演出家、東京デスロック主宰)
- 田上豊(劇作家・演出家、田上バル主宰)
- 有門正太郎(演出家・俳優、有門正太郎プレゼンツ主宰)
- 福田修志(劇作家・演出家、F's Company代表)
- ごまのはえ(劇作家・演出家、ニットキャップシアター代表)
- 越智良江(劇作家・演出家、演劇ユニットKOKOO主宰)
- 志賀亮史(演出家、百景社代表)
- 樋口ミュ(劇作家・演出家、PlantM主宰)

○アドバイザー

- 内藤裕敬(劇作家・演出家、南河内万歳一座座長)
- 岩崎正裕(劇作家・演出家、劇団太陽族代表)

○実施予定団体

- 愛知県知多市(知多市勤労文化会館)
- 三重県四日市市(四日市市文化会館、三浜文化会館)
- 大阪府豊中市(豊中市立文化芸術センター)
- 兵庫県西宮市(西宮市民会館 アミティ・ベイコムホール)
- 鳥取県(鳥取県立倉吉未来中心)
- 島根県安来市(安来市総合文化ホール アルテピア)
- 香川県丸亀市(丸亀市綾歌総合文化会館)
- 熊本県宇土市(宇土市民会館)

○問い合わせ

芸術環境部 栗林・石本
Tel. 03-5573-4124

財団からのお知らせ

●雑誌『地域創造』第49号を発行しました



文化芸術を通じた地域づくりの事例を紹介する雑誌『地域創造』第49号を発行しました。特集の1つ目は、部活動の地域移行など文化芸術を取り巻く環境が変わりつつある中、学校や家庭以外の場所で文化芸術を用いて教育活動を行う施設や取り組みを紹介し、子どもたちが自分の目で見て体験することを通して、劇場や舞台公演をより身近に、より日常に感じられる取り組みを紹介します。また、障がい者をめぐる文化芸術活動についての法や環境の整備が進み、公立ホールでインクルーシブシアターの取り組みを模索する動きが活発となる中で、早くからこうした取り組みを進めてきた国際障害者交流センターでの活動について現地学ぶ体験レッスンも行いました。

◎特集1「アート×社会教育」

- 神奈川県立青少年センター（神奈川県）
- サーラ音楽ホール／NPO法人浜松生涯学習音楽協議会（浜松市）
- 那覇市若狭公民館（沖縄県那覇市）

◎特集2「シアターデビュー」

- 愛知県芸術劇場「ファミリー・プログラム」（愛知県）

- 「キッズ・サーキット in 佐久2023」（長野県佐久市）
- 新開地アートひろば（神戸市）
- ◎空間のエスプリ—国際的事例のビジュアルレポート
- アタカラリ・センター・フォー・ムーヴメント・アーツ（インド）
- ◎体験レッスン—公立文化施設職員・文化政策担当者へのノウハウ伝授
- ビッグ・アイにインクルーシブシアターの取り組みを学ぶ（大阪府堺市）
- ◎SCOPE—地域の注目事例レポート
- 徳島県立近代美術館 ユニバーサルミュージアム事業（徳島県徳島市）
- 堀川団地再生まちづくり（京都府）
- 出雲芸術アカデミー／出雲フィルハーモニー交響楽団（島根県出雲市）
- ◎イラストSCOPE—伝統芸能・古典芸能・祭りなど伝承の取り組みのイラストレポート
- 美濃歌舞伎博物館 相生座（岐阜県瑞浪市）
- ◎座談会
- 地域に根ざした邦楽事業を考える
- ◎海外STUDY
- コミュニティとともにあるアクセシビリティ—ニューヨークを中心としたアメリカのアクセシビリティの現場から—
- ◎BOOK
- 早稲田大学演劇博物館報告集「ポストコロナ時代の劇場—未来の劇場のために」／「演劇と映像配信の未来を考える—英国ナショナル・シアターと松竹の事例から」

●地域創造発行物のご案内

文化・芸術を通じた地域づくりの事例を紹介する雑誌『地域創造』のバックナンバーや、地域創造レターで長年にわたって連載してきた制作基礎知識シリーズを中心にまとめたハンドブック『公立ホール・劇場職員のための制作基礎知識 増補版 2021年』などは、地域創造のホームページから入手が可能です。

*入手方法はこちらからご確認ください。 <https://www.jafra.or.jp/library/nyushu/application/>



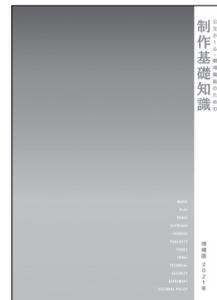
『地域創造』第48号
特集：ニューオープン／育成環境を考える



『地域創造』第47号
特集：レジデンス再考／well-being（よりよく生きる）



『地域創造』第46号
特集：コロナ時代／暮らしとアート



『公立ホール・劇場職員のための制作基礎知識 増補版 2021年』

●雑誌『地域創造』、地域創造発行物に関する問い合わせ
芸術環境部 管藤
Tel. 03-5573-4066

▼ 今月の情報

アーツセンター、アーツクルーから寄せられた情報を毎月掲載します

地域通信

●地域通信欄掲載情報について
最新の情報は主催者の発表情報をご確認ください。

●データの見方
情報は地域ブロック別に、開催地の北から順に掲載してあります。●で表示してあるのは開催地です。📍マークが付いている事業は地域創造の助成事業です。ラインの下は、事業運営主体、住所、電話番号、担当者名の順に記載してあります。色帯部分が事業名で、以下、内容を紹介しています。

●地域ブロック
[北海道・東北]北海道、青森、岩手、宮城、秋田、山形、福島
[関東]茨城、栃木、群馬、埼玉、千葉、東京、神奈川
[北陸・中部]新潟、富山、石川、福井、山梨、長野、岐阜、静岡、愛知
[近畿]三重、滋賀、京都、大阪、兵庫、奈良、和歌山
[中国・四国]鳥取、島根、岡山、広島、山口、徳島、香川、愛媛、高知
[九州・沖縄]福岡、佐賀、長崎、熊本、大分、宮崎、鹿児島、沖縄

●情報提供先
ファックス、電話、e-mailでお願いします。
Fax. 03-5573-4060 Tel. 03-5573-4093
letter@jafra.or.jp
地域創造情報担当 林・管藤

●2024年3月号情報締切
1月24日(水)

●2024年3月号掲載対象情報
2024年3月～5月に開催もしくは募集されるもの

北海道・東北

●札幌市

札幌国際芸術祭実行委員会
〒060-0001 札幌市中央区北1条西2丁目 札幌時計台ビル10F(札幌市市民文化局国際芸術祭担当部内)
Tel. 011-211-2314 佐藤
<https://2024.siaf.jp/>

札幌国際芸術祭2024

2014年から始まった札幌発の国際芸術祭。2020年の中止を経て6年半ぶり3回目の今回は、初めて冬季に開催される。市内6会場を中心に、北国の冬ならではの屋外イベントや、市民参加型プロジェクト、企業や団体とのコラボレーションを展開する。また、会期中は異なるテイストで彩るイベント構成で、市民には何度来ても楽しむことができ、また観光客には訪れるタイミングを決める目安として「ウィークテーマ」を設けている。

[日程]1月20日～2月25日
[会場]未来劇場(東1丁目劇場施設)、さっぽろ雪まつり大通2丁目会場ほか

●青森県弘前市

弘前れんが倉庫美術館
〒036-8188 弘前市吉野町2-1
Tel. 0172-32-8950 大澤美菜
<https://www.hirosaki-moca.jp/>

松山智一展:雪月花のとき

ニューヨークを拠点に、鮮やかな色彩と精緻な描線による絵画やパブリック・アートとしての彫刻など、大胆さと繊細さを併せ持った作品を発表している松山智一の日本初となる美術館での展示。初公開の新作9点を含む日本初公開作品23点や、コロナ禍を通じて創作活動の意味を問い続けた近年の作品群に加え、表に出ることの少ない作品制作のためのリサーチやスケッチなどの資料も展示される。

[日程]2023年10月27日～3月17日

[会場]弘前れんが倉庫美術館

●青森県十和田市

十和田市現代美術館
〒034-0082 十和田市西二番町10-9
Tel. 0176-20-1127
<https://towadaartcenter.com/>

荒木悠 LONELY PLANETS

映像作家・荒木悠の美術館では初の個展。青森を旅するように訪ね歩き、出会った人々やモチーフ・風景を捉えながらも、これまでの作家の関心である異文化間で起こる誤訳や誤解、本物(オリジナル)と複製(コピー)の関係、それらが表出させる権力構造等をテーマに展開させた新作の映像作品4点(制作費はクラウドファンディングで募集)を含む8作品を展示。

[日程]2023年12月9日～3月31日
[会場]十和田市現代美術館

●岩手県盛岡市

岩手県立美術館
〒020-0866 盛岡市本宮字松幅12-3
Tel. 019-658-1711
<https://www.ima.or.jp/>

そのとき、岩手では一展覧会でたどる、いわて美術の歴史―

岩手県初の洋画団体である北虹会の第1回展が開催された1910年を出発点に、県ゆかりの美術家たちの作品を常設公開する近代美術展示室を備えた県立博物館が開館した1980年までの70年間に、盛岡で開催された象徴的な展覧会や出来事にスポットライトを当て、その歴史を紐解く展覧会。約150点の作品の来歴をたどりながら、岩手の美術と県立美術館コレクションを再考する機会とする。

[日程]1月6日～2月18日

[会場]岩手県立美術館

●仙台市

仙台市市民文化事業団
〒981-0904 仙台市青葉区旭ヶ丘3-27-5
Tel. 022-301-7405 内山直子
<https://ssbj.jp/>

Atoa.(アトア)×シアターホール 創作公演「ココカラ先へ」

東日本大震災を契機として地元仙台で結成された和太鼓演奏チームAtoa.を演出として迎えて開催される創作公演。Atoa.による和太鼓を筆頭に笛やギターを用いた和洋を織り成す演奏と、コンテンポラリーダンスやサーカスパフォーマンス、バレエなどのさまざまなジャンルで活躍するダンサーの共演により繰り広げられる音と舞踊の世界をお届けする。

[日程]1月21日

[会場]日立システムズホール仙台

●秋田県横手市

秋田県立近代美術館
〒013-0064 横手市赤坂字富ヶ沢62-46
Tel. 0182-33-8855 北島珠水
<https://common3.pref.akita.lg.jp/kinbi/>

「みんなのキンビ」プロジェクト 第1弾 からだじゅうであじわう大根ビネーション展

「みんなのキンビ」プロジェクトは、秋田県立近代美術館を中核に多様な主体が連携・協働し、障害の有無等にかかわらず、美術を通じて多様な人々が出会い、共に学びあえる場を創造する3カ年計画の事業。今回は、「ふるさと秋田」あるいは地域や人との「つながり」といった自分たちの「根っこ(ルーツ)」を見つめ直すための展覧会を開催。美術館が誰にとっても身近にの願いから、身近な存在の「大根」を表現テーマに設定。大根にまつわる展示やワークショップなどさまざまなプログラムが展開される。

[日程]2023年11月11日～1月28日

[会場]秋田県立近代美術館

●福島県福島市

福島県立美術館

〒960-8003 福島市森合字西養山1番地

Tel. 024-531-5511

<https://art-museum.fcs.ed.jp/>

福島アートアニュアル2024

「二次の彼方に」

福島県出身・ゆかりの若手作家を紹介するシリーズ。第3回展となる今回は、安齋菜由、ク渦群、高木チャーの3名を取り上げ、二次元コンテンツとの強い親和性をうかがわせる絵画作品を展示。デジタル技術の進歩がリアルとバーチャルの境界を限りなく曖昧化していく現代に、二次元に何を求め、その向こうに何を見出そうとしているのか、創作活動をもとにその意味と可能性について考える。

[日程] 2月3日～3月3日

[会場] 福島県立美術館

関東

●群馬県前橋市

アーツ前橋

〒371-0022 前橋市千代田町5-1-16

Tel. 027-230-1144 酒井

<https://www.artsmaebashi.jp/>

アーツ前橋開館10周年記念展 「ニューホライズン 歴史から未来へ」

開館10周年を迎えるアーツ前橋が、過去歩んできた文化芸術活動を基点に、次の10年に向けて街とアートがともに発展していくビジョンを表す展覧会。蔡國強やジェームズ・タレルといった現代アートの巨匠から新鋭まで18組のアーティストが出演。市街地でもアート活動を展開し、人工知能などテクノロジーを用いた作品の展示に加え、地域の人々との共同制作など、街とミュージアムの新たな協働の道を拓く。

[日程] 2023年10月14日～2月12日

[会場] アーツ前橋

●東京都目黒区

東京都写真美術館

〒153-0062 目黒区三田1-13-3 (恵比寿ガーデンプレイス内)

Tel. 03-3280-0099

<https://topmuseum.jp/>

即興ホンマタカシ

画一的な開発が進む東京郊外の風景と人々を一定の距離感で撮影し、叙情性を排した視点が高い評価を受けたホンマタカシ(1962～)の個展を、日本の美術館で約10年ぶりに開催。「即興」をキーワードに、建築物の一室をピンホールカメラに仕立て、世界各地の都市を撮影したシリーズを中心に、葛飾北斎の富嶽三十六景に着想を得た富士山を写したシリーズなどの近作を展示。

[日程] 2023年10月6日～1月21日

[会場] 東京都写真美術館



ホンマタカシ〈New York〉
〈THE NARCISSISTIC CITY〉より
2013年 ©Takashi Homma Courtesy of
TARO NASU

●東京都品川区

品川文化振興事業団

〒140-0011 品川区東大井5-18-1

Tel. 03-5479-4112 中山武志

<https://www.shinagawa-culture.or.jp/curian/index.html>

輝け!しながわジェンヌ2024

2018年の初開催から今年で6年目を迎える舞台公演事業「しながわジェンヌ」。区内在住・在勤・在学の小学生以上を対象に

公募し、オーディションで選ばれた35人が宝塚歌劇団卒業生の指導を受け舞台で共演する。第1部では、しながわジェンヌと卒業生のコラボステージ、第2部では、卒業生によるレビューショーをお届けする。

[日程] 1月21日

[会場] きゅりあん(品川区立総合区民会館)

北陸・中部

●富山県富山市

富山市民文化事業団

〒930-0858 富山市牛島町9-17

Tel. 076-445-5610 福岡美奈子

<https://www.aubade.or.jp/>

AUBADEHALL Produce タニノクロウ×オール富山3rdStage 『ニューマドンナ』

劇作家・演出家のタニノクロウが故郷の富山に滞在し、市民と共に演劇作品をつくり上げる「オール富山」プロジェクト第3弾。小さな町の歓楽街を舞台に時代を鋭く捉えるタニノが、力強く生きる現代の人々の姿を鮮やかに映し出す。市民35人が制作した精巧な舞台美術もみどころ。関連企画として、劇中に登場するスナック「マドンナ」が街なかに出現し、キャストやスタッフがリアルに客をお迎えする。そのほか公式オフ会も開催される。

[日程] 1月25日～28日

[会場] オーバード・ホール(富山市芸術文化ホール)

●長野県松本市

松本市美術館

〒390-0811 松本市中央4-2-22

Tel. 0263-39-7400 洪田見彰

<https://matsumoto-artmuse.jp/>

須藤康花 ―光と闇の記憶―

闘病の末、30歳という若さで夭折した画家・須藤康花(1978～2009)。幼少期から入退院を繰り返しながらも描くことに執着

してきた須藤は、2007年、多摩美術大学大学院修了と同時期に癌発症の告知を受け、死期を予感する中で、より創作に没頭、1,000点余りの作品を残した。本展は、作品の散逸を防ぐため父親が松本市内に設立した康花美術館の協力の下、知られざる夭折の画家の全貌に迫る初めての大規模回顧展となる。

[日程] 2023年12月9日～3月24日

[会場] 松本市美術館



《夢幻2》(2001年頃/康花美術館蔵)

●岐阜県岐阜市

岐阜市民会館

〒500-8812 岐阜市美江寺町2-6

Tel. 058-262-8111 安藤正浩

<https://gifu-civic.info/>

第16回ぎふジャズフェスティバル

会館の「ジャズ・ポップス教室」受講者で結成されたレジデントビッグバンド「楽市JAZZ楽団」を中心としたジャズコンサート。10～70歳代の幅広い世代が、サクソフォン奏者の野々田万照と粥川なつ紀がそれぞれ音楽監督を務める2つのバンドに分かれて日頃の成果を披露するほか、全国で活躍するアーティストをスペシャルゲストに迎える。

[日程] 1月21日

[会場] 岐阜市民会館



昨年のステージ

▼— 今月の情報

アーツセンター、アーツクルーから寄せられた情報を毎月掲載します

●静岡市

静岡県文化財団

〒422-8019 静岡市駿河区東静岡2-3-1

Tel. 054-203-5714

<https://www.granship.or.jp/>

H ZETT M×神奈川フィルハーモニー管弦楽団「新しいチカラ」

超絶技巧や「無重力奏法」でピアノの可能性を無限に引き出すピアニスト・H ZETT Mと、クラシックの枠に留まらない幅広い活動で注目を集める神奈川フィルハーモニー管弦楽団によるコラボレーション公演。H ZETT Mがこの日のために作・編曲したオーケストラ曲を披露する。指揮者に高井優希を迎え、グランシップオリジナル企画として静岡で実現。

[日程] 1月21日

[会場] 静岡県コンベンションアーツセンター グランシップ

●愛知県長久手市

長久手市文化の家

〒480-1166 長久手市野田農201

Tel. 0561-61-3411 山本

<https://bunkanoie.jp/>

文化の家のピアノ解剖 —演奏付き音楽講座—

2022年から始まった「これまでにない音楽講座」をコンセプトに、さまざまな種類の音楽をジャンル横断的に取り上げる企画。講師はシリーズを通して音楽ライターの小室敬幸が務める。今回は、文化の家が所有するスタインウェイとベーゼンドルファーの2台のピアノに焦点を当て、その魅力に迫る。田畑孝高、菅原拓馬のピアノ演奏も披露される。

[日程] 1月12日

[会場] 長久手市文化の家

近畿

●大阪府豊中市

豊中市立文化芸術センター

〒561-0802 豊中市曾根東町3-7-2

Tel. 06-6864-3901 齊藤あかね

<https://www.toyonaka-hall.jp/>

ここから始まるクラシック!! 2024

2017年の開館時から開催しているクラシック講座。とよなかARTSワゴンアーティストバンク登録アーティストである二人のピアニスト(若井亜妃子、新崎洋実)が、演奏と作曲解説を織り交ぜながら音楽への情熱を語る。第1回はプレリユード編、第2回はエチュード編、第3回は舞曲編、第4回はまとめ編となり、各テーマに沿った楽曲について深掘りし、曲が生まれた歴史や意味、芸術性を紐解く講座となっている。

[日程] 1月14日、28日、2月25日、3月2日

[会場] 豊中市立文化芸術センター

●大阪府東大阪市

東大阪市民美術センター

〒578-0924 東大阪市吉田6-7-22

Tel. 072-964-1313 田中由紀子

<https://hos-higashiosaka-art.com/>

米山より子展 水の遠景

Scenery evoked by water

造形作家・米山より子は、奈良県吉野の伝統的手漉き和紙との出会いを機に、金工技術に応用した新しいマチエールを開発し、水を媒体に紙、米などを素材として日本古来の美術技法を考察しながら作品を制作している。本展では、「水と米」「水と和紙」「水と鉱物」をテーマに、古来より豊かな川と湖が育んできた水を巡るこの地域の記憶を立ち上げ、水と人々との関係性を浮かび上がらせる。

[日程] 2023年12月21日～1月8日

[会場] 東大阪市民美術センター

●兵庫県伊丹市

伊丹市民オペラ公演実行委員会

〒664-0895 伊丹市宮ノ前1-3-30(伊丹アイフォニックホール内)

Tel. 072-780-2110 近藤遼子

<http://aiphonic.jp/>

第38回伊丹市民オペラ定期公演「ナブッコ」

市民と音楽家との協働によるオペラ公演の実施を通して、若手音楽家の発掘・育成、地域における音楽文化の普及・発展を目的として始まった伊丹市民オペラ。第38回となる今回も、市内外から公募により集まった約60人の市民合唱団が参加し、G.ヴェルディ作曲『ナブッコ』を上演する。好評だった第36回の『アイダ』同様、映像と音楽で魅せる新しいコンサート・オペラのスタイルで実施。

[日程] 1月28日

[会場] 東りいたみホール(伊丹市立文化会館)



第36回「アイダ」(2022年1月23日)

●兵庫県西宮市

西宮市大谷記念美術館

〒662-0952 西宮市中浜町4-38

Tel. 0798-33-0164 作花麻帆

<http://otanimuseum.jp>

コレクション展 日本画ことはじめ

実業家・大谷竹次郎の旧蔵品である約150点の日本画から、当時好まれた画題や、画家同士の関係性などをテーマとして厳選し、4章構成で展示するコレクション展。作品が描かれた時代背景や、作家たちの関係性といった観点から展示することで、時代の流れの中で、独自の道を歩み始めた日本画の新たな魅力を発見できる。

[日程] 1月13日～2月18日

[会場] 西宮市大谷記念美術館

●奈良県奈良市

奈良県立美術館

〒630-8213 奈良市登大路町10-6

Tel. 0742-23-3968 松川綾子

<https://www.pref.nara.jp/11842.htm>

漂泊の画家 不染鉄～理想郷を求めて

不染鉄(1891～1976)は戦後、奈良・正強高校(現・奈良大学附属高校)の校長として請われたのを機に同地に居住し、画壇とは距離を置きながら独自の道を歩み、村落風景や古寺の景観、幻想的な夜の情景など理想郷的世界を描いてきた。開館50周年を記念する本展では、初期から晩年までの代表作を展示し、不染作品の魅力を改めて顕彰する機会とする。

[日程] 1月13日～3月10日

[会場] 奈良県立美術館

中国・四国

●岡山県真庭市

真庭エスパス文化振興財団

〒719-3214 真庭市鍋屋17-1

Tel. 0867-42-7000 井尾祥子

<https://kuse-espase.jp/>

エスパス管弦楽団ニューイヤーコンサート2024 in 北房

地元の有志で構成されたエスパス管弦楽団とエスパスジュニアによるニューイヤーコンサート。指揮：萩原勇一、コンサートマスター：中野了で贈る今回の楽曲は『風になる』『上を向いて歩こう』『トルコ行進曲』など馴染みの名曲を中心に演奏され、初めての方も気軽に楽しめる内容となっている。市内小中学生は先着50人まで無料で、会場までのバスの乗車券も進呈される。

[日程] 1月28日

[会場] 北房文化センター

●徳島県徳島市

徳島県立近代美術館

〒770-8070 徳島市八万町向
寺山(文化の森総合公園内)

Tel. 088-668-1088 友井伸一
<https://art.bunmori.tokushima.jp/>

フリースペースチャレンジとくしま芸術祭2024

徳島発のアーティストの発見と支援を目的として2010年にスタートしたアートフェスティバル。徳島県出身または在住であれば、プロ・アマを問わず、経験や年齢、国籍などは不問で、展示や上演(パフォーマンス)できるものなら何でも応募できる。15回目の今年はこの形式では最後の開催となる。絵画、彫刻、工芸などの「展示部門」と、音楽、ダンス、芸能などの「パフォーマンス部門」で、それぞれのアーティストのさまざまなチャレンジが発表される。

[日程] 1月23日～2月4日

[会場] 徳島県立近代美術館



2023展示部門グランプリ melon「対峙」

●愛媛県今治市

今治市河野美術館

〒794-0042 今治市旭町1-4-8
Tel. 0898-23-3810 谷川月彩

<https://www.city.imabari.ehime.jp/museum/kono/>

おカネの中の日本文化

2024年夏に新紙幣の発行が予定され、新しいデザインや新1万円札の渋沢栄一など肖像の人物の紹介が盛んとなっている。紙幣に使用される建築や植物、絵画とそのモチーフは昔から日本で親しまれたものが採用されており、本展では所蔵品の中から、

これまで肖像に採用された人物による書画、デザインされた動植物を題材にした日本画などを展示する。

[日程] 2023年11月18日～3月17日

[会場] 今治市河野美術館



渋沢栄一書(河野美術館蔵)

●高知県高知市

高知市文化振興事業団

〒781-9529 高知市九反田2-1
Tel. 088-883-5071 中澤千恵

<https://www.kfca.jp/kikaku/>

Kochi Art Messe—高知アートメッセ—Vol.5

高知の美術文化を担う若い世代の作家を応援することを目的に、2018年度から実施している公募作品の展示と販売を行う企画展。高知県内在住もしくは県出身で16歳～40歳未満の作家に、活動をアピールし販売による作品への反応を計る場として活用を促し、来場者には鑑賞だけでなく気に入った作品を飾って楽しむことを提案し“美術のファン”を増やす取り組み。

[日程] 1月25日～28日

[会場] 高知市文化プラザかるぼーと

九州・沖縄

●福岡県久留米市

久留米シティプラザ

〒830-0031 久留米市六ツ門
町8-1

Tel. 0942-36-3000 伊藤未紀

<https://kurumecityplaza.jp/>

ジャズピアニスト田中菜緒子×N響メンバーによるシューベルト「鱒」

くるめふるさと大使のジャズピ

アニスト・田中菜緒子とNHK交響楽団メンバーである松田拓之、横島礼理、坂口弦太郎、山内俊輔、吉田秀により、「ジャズとクラシックの融合」をお届け。小学生対象の事前レクチャーでは、本番で披露するシューベルトの『鱒』第4楽章のメロディをクラシックとジャズ風の演奏でどのような違いがあるのか、楽器紹介やトークを交えわかりやすく解説する。

[日程] 1月8日

[会場] 久留米シティプラザ ザ・グランドホール

●長崎県長崎市

長崎県美術館

〒850-0862 長崎市出島町2-1
Tel. 095-833-2110 川口佳子

<http://www.nagasaki-museum.jp/>

永田玄の眼 タイ古陶の美

長崎ゆかりの美術コレクター・編集者である永田玄のコレクションを国内外で初めて紹介する展覧会。タイとその周辺地域の陶磁器、中でも黄金期と呼ばれる15・16世紀のものを中心に79点を紹介。特に永田の審美眼を体験できるよう、作品のキャプションは永田自身が記載したものを使用し、関連資料として永田の著書や父である画家・永田力の絵画なども展示する。

[日程] 2023年10月27日～1月21日

[会場] 長崎県美術館

●鹿児島県鹿屋市

鹿屋市文化会館

〒893-0007 鹿屋市北田町
11107

Tel. 0994-44-5115

<http://www.omega.ne.jp/rosy-town/kch/index.html>

～楽団プロジェクトコンサート 第2楽章～クラシックと民族音楽の交差点

鹿屋市文化会館楽団プロジェクトは、地元演奏家の活躍の場の

創出や他ジャンルとのコラボで市民にクラシックを身近に感じてもらうことを目的に、地元大隅出身の音楽家により令和2年度に設立。今回は、昨年の「大隅の作曲家展」に続く企画として、フルートやヴァイオリン、ヴィオラ、チェロ、ピアノの5人の演奏で、民謡や伝統音楽に影響されたクラシックやオリジナル曲を解説も交えてお届けする。

[日程] 1月14日

[会場] 鹿屋市文化会館

講座・シンポジウム

鑑賞サポート講座

～文化施設でのアクセシビリティを考える～

文化行政担当職員や文化施設職員など文化・芸術に携わる方を対象とし、広島県が主催する研修会。3回目となる今回は講師に廣川麻子氏(NPO法人シアター・アクセシビリティ・ネットワーク理事長)と岸本匡史氏(アーツカウンシル東京 シニア・プログラマー・オフィサー)を迎え、聴覚障害の特性や支援のポイントを学びながら、鑑賞をサポートする舞台演出、舞台手話通訳、タブレット字幕などの先進的な取り組みを紹介するとともに、ワークショップを通じて、聞こえない・聞こえづらい方をお迎えするシミュレーションを行い、現場でのスキルを磨く。

[日程] 1月25日

[会場] 県立広島大学サテライトキャンパスひろしま504

[問い合わせ] ひろしま文化振興財団 Tel. 082-249-8385

http://www.h-bunka.or.jp/zaidan/kensyuu/r05/kenshur05_03.html

▼— 今月の情報 (アーツセンター編)

新たにオープンした公立のアーツセンターを紹介します

アーツセンター情報

●データの見方

情報は所在地の北から順に掲載しています。●で表示してあるのはアーツセンターの所在地です。以下名称、住所、電話番号、公式サイトURLを記載しています。また、基礎データとして、設置者、運営者、ホール席数など施設概要を紹介しています。

●情報提供のお願い

地域創造では、地域の芸術環境づくりを積極的に推進するアーツセンター(ホール、美術館などの施設のほか、ソフトの運営主体も含みます)の情報を収集しています。特に、新規の計画やオープンなどのトピックスについては、この情報欄に掲載していく予定です。このページに掲載を希望する情報がございましたら、情報担当までご連絡ください。

●情報提供先

地域創造レター担当
Fax. 03-5573-4060
Tel. 03-5573-4093
letter@jafra.or.jp

●北海道遠軽町

遠軽町芸術文化交流プラザ

〒099-0415 紋別郡遠軽町岩見通南1-1-2

Tel. 0158-46-7151

<https://engaru-metroplaza.jp/>

◎2022年8月26日オープン



吹奏楽が盛んな遠軽町の文化を継承し、新たな交流と賑わいを創出するシンボル施設として開館。老朽化した福祉センターなど公共施設の機能を統廃合するとともに、防災機能を備えた避難所としての役割も担う。公募で選ばれた愛称の「メトロプラザ」は、音楽(メトロノーム)と鉄道、文化・経済の中心地(メトロ)を意味している。

メインとなる大ホールは吹奏楽やオーケストラ、ピアノなどの音が豊かに響く空間となっており、音響可変装置により、ポップスなど大音量のコンサートにも利用が可能。またリハーサル室や和室、調理研修室など文化活動の拠点となるようさまざまな公民館機能も備えるほか、ホワイエにはカフェの併設や自由に使用できるフリースペースを配し、誰もが気軽に立ち寄れる地域交流の場となっている。

[オープニング事業]札幌交響楽団公演、劇団四季ファミリーミュージカル ほか

[施設概要]大ホール(606席)、小ホール(約378m²)、スタジオ、リハーサル室、調理研修室ほか

[設置者]遠軽町

[管理・運営者]遠軽商工会議所

[設計者]石本・日本都市設計共同企業体

●北海道別海町

別海町生涯学習センター

「みなくる」

〒086-0202 野付郡別海町別海旭町149-1

Tel. 0153-75-2146

https://betsukai.jp/kyoiku/civic_center/

◎2022年10月1日グランドオープン



「まちのにぎわいを感じられる多世代が交流できる施設」として、別海市街地(旧JR別海駅周辺)に整備された公民館・福祉・防災の3機能を有する複合施設。館内には、主に高齢者が利用するサロンや、子どもから大人まで自由に集え、全面に大きな窓のある開放的なホワイエ、ボランティア活動の拠点など、さまざまな機能が集約されている。

603席(HC席含む)のホールは、音楽コンサートや発表会、講演会をはじめ、移動式の席を収納した場合は平場の会場としても利用できる。またリハーサル室1(大)は、音響照明装置を備え、小規模なコンサートや発表会なども開催できる。

エレベーターやバリアフリートイレの設置だけではなく、音声案内や補聴援助システムを設置するなど、多様な利用者にも安全に安心して利用できるよう配慮された「新たな時代に相応しい別海町のシンボリックな施設」となっている。

[施設概要]ホール(603席)、会議室2室、リハーサル室2室、和室・茶室、陶芸室、木工・美術室ほか
[設置・管理・運営者]別海町
[設計者]石本・エス建築特定共同企業体

●鹿児島県指宿市

指宿市民会館

〒891-0404 指宿市東方9300-1

Tel. 0993-22-4105

<https://www.city.ibusuki.lg.jp/>

◎2022年7月31日オープン



旧市民会館の老朽化に伴い、指宿市の新たな文化芸術と地域活性化の拠点として、ふれあいプラザなのはな館の敷地内に移転整備された。

プロも市民も利用できる800席の大ホールは、天井と壁面に音響反射板を備える。展示スペースに活用できる開放的なホワイエは、隣り合う外の芝生広場と出入りでき、授乳室やトイレを利用したり、テーブル席で休憩したり、市民が普段から交流できる空間として活用されている。このほかりハーサル室、創作活動室や会議室を設置。

ホールの座席やエレベーターには、地域の史跡や南国のハイビスカスをモチーフにしたデザインを使用し、施設が地域の魅力を継承する役割も担う。

[オープニング事業]新指宿市民会館オープニングイベント、「バロン吉元里帰り展」、NHK「にほんごであそぼコンサート in 鹿児島」ほか

[施設概要]大ホール(800席)、リハーサル室(111m²)、小会議室(41m²)、創作活動室(50m²)、エントランスホール(261m²)、ホワイエ(84m²)ほか

[設置・管理・運営者]指宿市
[設計者]安井・肥後設計共同企業体

▼— 今月のレポート

財団の支援事業や地域の創造活動に参考になる催しを取り上げてレポートします

仙台市

せんだいメディアテーク 「自治とバケツと、 さいかちの実— エピソードでたぐ る追廻住宅—」



「自治とバケツと、さいかちの実」展示風景。経過年表は匿名化して展示された。

●「自治とバケツと、さいかちの実—エピソードでたぐる追廻住宅—」

【会期】2023年11月3日～12月24日

【会場】せんだいメディアテーク6階ギャラリー4200

【主催】せんだいメディアテーク（公益財団法人 仙台市民文化事業団）

【協力】新田住宅親和会、青葉山公園・仙臺緑彩館（青葉山エリアマネジメント）、仙台市民図書館

※せんだいメディアテークは、2001年の開館当初から市民活動をサポートしている。東日本大震災の発生後、2カ月足らずで「3がつ11にちをわすれないためにセンター」を開設し、市民自身が震災と復興を記録し、発信・共有する場と機会をつくってきた。

*1 1941年に設立され、全国規模で戦時下の住宅供給事業を行った営団。終戦後、GHQから解散命令が下され、1946年12月に解散した。

*2 亜炭とは、石炭より炭化度が低く燃やすと煙と匂いが出る生活燃料の一種。仙台では青葉山を中心に1965年頃まで用いられていた。埋木（うもれぎ）とは、大木が地中に埋もれ長い年月で炭化した化石のような希少工芸材。

昭和初期から終戦を経て現在に至る近現代の出来事は、評価がまだ定まらず歴史博物館や資料館では扱いにくい。一方で、当時を伝える物も人も忘れ去られる瀬戸際にある。この時代をどのように記録し、表現していくのか。せんだいメディアテークが企画・主催した「自治とバケツとさいかちの実—エピソードでたぐる追廻住宅—」展の試みを取材した。

「追廻住宅」とは、仙台北城跡のある青葉山と広瀬川の間位置する川内追廻地区にあった街だ。現在は市有地だが元々は国有地で、終戦直後、戦災で家を失った人や引揚者のために住宅営団^(*)が応急簡易住宅を建設。一時は約600戸3,000人が暮らしていたが、戦後の歩みを伝える追廻住宅も市の公園化計画によって立ち退きを迫られることになる。紆余曲折を経て2023年2月、最後の1軒が取り壊された。

展覧会初日、こうした歩みをエピソードで「たぐる」という会場に入ると、展示は仙台藩時代の歴史資料から始まっていた。戦前までの資料に続き、追廻住宅によってやっと安住の地を得た引揚者が心境を詠った短歌のコーナーを経て、町内会が発行した記録誌『追廻住宅親和会 60年のあゆみ』の「経過年表」を原資料とした長大な年表が展示されていた。

年表は「仙台市・財務局の動き」と「追廻住宅親和会の居住権を守る運動」を併記したもので、新聞記事や写真も掲示。住宅営団から建物を買って国に土地の賃借料を払って住み続けていた住民と、この地区の公園整備を目指す市との相剋が浮き彫りになっていた。

次の展示室ではこれまでと一転、かつての追廻の街に迷い込んだような路地的な空間が出現。壁がボール紙だった終戦直後の住宅写真、実を石炭代わりに使ったい皂莢の木、町内会のバケツリレー消火訓練、神輿、住民の童謡詩人・スズキヘキの部屋など、膨大な写真や資料をインスタレーション。〈ないなりにみんなで作る〉〈助け合いは当たり前〉といったたくましく温かい人々の暮らしや、〈親子2代の交渉〉〈早く出たい〉といった厳しい交渉を物語る

エピソード・ボードもあちこちに設置されていた。そして、最後の1軒が取り壊されていく映像と、その建物の廃材の上に設置された空白のエピソード・ボードで展示は終わった。

この展示に構成・制作として携わったのが、アーティストの佐々瞬と伊達伸明だ。佐々は2015年頃から追廻地区に出入りし、住民への聞き取りを元に作品を制作（最後の映像は佐々の撮影）。伊達は身近にあった亜炭や埋木^(*)などを市民と調べ、歴史と楽しみ方を掘り起こしていく「せんだいマチナカアート」に12年から関わるなど、二人とも地域縁の作家だった。だからこそ、メディアテークからのオファーに相当に悩んだという。

「それぞれにまだ複雑な思いを抱いている人がいることがわかっていて。今と地続きの、終わっていない街や歴史にどう向き合うのか。追廻を“材料化”してしまう恐れもあった」と二人は異口同音に話す。

追廻の人たちと交流し、調査を重ねたメディアテークの担当スタッフの薄井真矢さん、北野央さんも展示の方向性が決まるのに時間を要したと振り返る。最終的には年表を基盤とし、佐々が住民から聞き取った話を伊達が匿名のエピソードに変換して配置。さまざまな記憶をもつさまざまな立場の人たちが暮らしてきた街を多層的に、複雑なままに表現した。

「アーティストという外来者の立場を維持しながら地域と関わることで、歴史研究には残らない隙間を拾い上げ、拡張させられると思う」という伊達と、「行政に頼れないなか、自分たちで生きるタフネスと技術をもった人々の歴史がすぐ足下にある。それを知らせたかった」という佐々の協働が実った展示だった。

11月5日に行われたギャラリートークには、移転先から元住民たちも多数駆けつけた。熱心に見て歩いた女性は、「追廻は更地になって終わりだと思っていたのにこんなに大きく丁寧に扱ってくれて嬉しいのと、恥ずかしいのが半々です」と語った。近現代を次代に繋ぐアーティストの役割が垣間見えた展示だった。

（アートジャーナリスト・山下里加）